

一般質問



- 水害について～豪雨から住民を守れるか
- 上水道について～神代地区の上水の汚れは深刻～
- 庁用車について

安藤 武 議員

水害について

質問 各河川の常習的氾濫にどのような対策を取るのか。今回の氾濫箇所は、いずれも頭首工が関係している。管理責任も問われるが、まずは地元関係者と話し合うことが先決ではないかと思うが、市長の考えを伺う。

答弁 県に対し、河川氾濫対策の一つである州ざらいを要望しているが、県の予算上、管内では数件しか実施できないことから、その対策に苦慮している。

県管理河川では、市でも助力できる部分もあると思うので、県と市の助力の可能性やシステム等について協議を始めたい。

市管理河川については氾濫しそうな箇所を特定し、計画的に対策に努める。河川改修、州ざらい事業について要望活動は今

後も強力で継続していきたい。

質問 都市計画の立遅れの例が、駅東公園付近の洪水である。赤川の改修とあわせて、周辺の水路整備が必要と思われる。また、小松の本町信号付近も常習的洪水の場所である。道路の陳情も出ているので、あわせて改良を考えるべきと思うがどうか。

答弁 駅東公園付近の赤川流域については、調査を行っている。周辺の水路改良については、調査を行って

は、調査を行っている。周辺の水路改良について



改修が待たれる院内川上流域（7月30日）

て、現在検討をしている。小松字山崎地区については、地域の方々から市道改良の要望が出されているが、市道改良とは別に災害対策として対応をする。

質問 職員の防災意識はこれで十分か。職員はそれぞれの集落に

いると思うので、情報収集は容易と思う。そのような情報収集システムはできないものか。

答弁 今回の災害における職員の防災意識については、経験、想定を超えるものがあつた事を差し引いたとしても、十分であったとは言えない無念さがある。今一度検証し、意識を変え、平常時から実践的な防災訓練を実施し、危機管理意識の高揚に務め、市民の安心・安全を守る。

質問 避難勧告の受け止め方、避難場所での対応に問題を残したという話を聞かすが、避難対策に問題はなかったか。

答弁 住民に混乱が生じないよう細心の

注意を払いながら、広報車と戸別訪問を行い適時、適確に迅速な誘導を行った。しかし、配慮に欠けていた部分もあり反省している。

上水道について

質問 水源調査の実施を急ぐべきである。一つの段階で予算をつけるのか、また、西木町に隣接する地区への供給のため、西明寺地区の水量調査を急ぐべきではないか。

答弁 簡易水道事業特別会計予算に、神代地区の水道未普及地域解消のための予算を計上し、水源調査の実施に向けての準備を進めている。また、西明寺簡易水道からの神代地区への拡張を探るための水源調査も実施する。まずは水源の確保に向けて努力をする。

質問 全体計画は、住民に安心を与えるためにも必要である。一日も早く神代の整備計画、給水計画を示して欲しいがどうか。

答弁 土、日、祭日の運行は市の業務遂行のため必要と認める事業については、運行をできる限り対応している状況である。

答弁 水源が確保でき

た時点で、西明寺簡水の拡張も含めた神代地区全体の事業計画を、出来る限り早い時期に示したい。

質問 水道が整備する間をつなぐ方法として、小規模水道組合を復活させ、これに助成する事は考えられないか。

答弁 小規模水道を公営として実施する考えは今のところない。ただし、地区の方々が組合組織等で共同で実施することには異論はない。助成については、経済的・効率的な手法を選択すれば、事業費の負担をすることも検討する。

庁用車について

質問 土、日、祭日のバス利用について、もっと利用しやすくできないか。

答弁 土、日、祭日の運行は市の業務遂行のため必要と認める事業については、運行をできる限り対応している状況である。

（田口寿 記）

一般質問



- 「角館、田沢湖」地域ブランド戦略について
- 豪雨災害を踏まえた防災対策と今後のあり方について

高橋 豪 議員

「角館・田沢湖」地域ブランド戦略について

質問 本定例会の一般会計補正予算に、仙北市観光戦略事業・観光ブランドロゴマーク制定費として「田沢湖・角館」の統一ブランドロゴマークのデザイン費用が計上されている。地域ブランド戦略に対する考え方、中長期に及ぶ計画、具体的戦略の内容について伺う。

答弁 観光は、産業、福祉等のブランドデザイン、いわば地域力を総合的に発信できる最も的確なる政策分野と考える。こうした観点から、観光ブランド「田沢湖・角館」をフラッグシップとして位置づけ観光戦略に取り組み決意をした。今後は函館や金沢への新幹線延伸なども考慮しながらエージェンツ等を通じて国内でのブランド周知を図り、さらにインバウンドにつなげる戦略にシフトしていくことが不可欠である。ブランド戦略は途についたばかりだが、

補完するアクションプランとしてロゴマーク制定やパンフレット等への統一活動に取り組み、タイムリーで多様なコンテンツを有機的に構築したい。

質問 「田沢湖・角館」を統一ブランドとして打ち出すものであれば、対外的に最もインパクトがある方法は市名の変更ではないかと思うが市長の考えを伺う。

答弁 「田沢湖・角館」は、全国的にも知名度があり、市名の変更は観光戦略上有効な選択肢の一つとは考えますが、田沢湖・角館を連ねた市名は合併協議の中でも決定できなかったことなど、紆余曲折を経て仙北市が誕生している経緯がある。市名は市民のものであり、それをめぐる環境には市民感情を初め様々な状況を有している。仮に市名変更を狙うにのせるにしても、その是非等は総合的に検討する必要があり、直接的な市名の議論を近々に開始することは難しいかと考えている。田沢湖・角館

という大きな御旗を立て仙北市をアピールしていきたい。

質問 豪雨災害を踏まえ、市の災害防止対策、緊急時の組織体制強化、また被災された方々への支援等、市民の生活と安全を守るための施策を伺う。

答弁 多くの課題に防災計画を抜本的に見直す。職員全員の危機管理意識の高揚に努め市民の安心・安全を守りたい。水害は概ね同じ箇所が多いため県や国の所管については、各機関に早期の整備促進を強く要望し、市が負担をすべきものについても整理も行いながらシステムを構築したい。また農業用水の氾濫が水害に拍車をかけているため、土地改良組合等と管理のあり方について協議を進めていく。組織体制については職員が出身地域を見回り、一早く状況を把握して報告、または消防団と連携できるしくみを検討する。支援策は、薬剤散布・ゴミ回

収等職員を動員して行った。また災害見舞金の支給や建物再建、補修等に要する工事費の一部補助金、水道料金の減免措置など被災者支援に当たっている。なお、防災無線が雨音で聞き取れなかったとの声が寄せられており情報伝達手法の整備検討を進めたい。

質問 本市の災害時応援協定は今現在どのようなものがあるか。

答弁 以前から協定のある団体は、角館

町建設業協会、仙北市管工事協会、NPO法人コメリ災害対策センター、田沢湖町内郵便局、NTT、東北電力大曲営業所などである。仙北市の建設業協会連合会が設立になっているので、この度、角館町建設業協会から仙北市建設業協会連合会との協定へ移行した。大曲仙北電気工事協同組合との協定も締結した。今後医療に関しても範囲を広

げたい。

(安藤 記)



観光客で賑わう秋の武家屋敷通り

一般質問



- 議員報酬 10%引き下げについて
- 着地型観光について
- チャレンジデーについて
- DMVについて

狐崎 捷琅 議員

議員報酬10パーセント引き下げについて

質問 仙北市の年間の市民所得は県内の市では1番低い176万2千円である。

一方、議員報酬は仙北市は31万2千円で、同規模の北秋田市は現在23万2千円である。

私達の党派、民生会議は、現在の仙北市議員報酬を10パーセントカットし、現在の31万2千円を28万程度に下げたいと考え、賛同する皆さんと一緒に12月議会に議員提案条例を提出したいと考えている。財政再建に当たるとともに議員自らが襟を正して再建に当たらないと考えると、

ただ、選挙費用がかさむ現制度では、若い人達が出馬しにくいという考えがある。それは、仙北市では選挙運動公営制度が出来ていないからだと思う。選挙運動公営制度がないのは県内の市の中で仙北市だけである。仙北市を除く全市は選挙カー、運転手、ポスター、ウグイス嬢まで補助が出ています。私は、秋田県内の他市に比較して遅れている選挙運動公営制度は他市並みにきちんとして、議員報酬は下げるときだと考えるが市長の考えをお聞きしたい。

答弁 議員の報酬については、議員の方々と議論を頂き、議員の皆さんが市民の意見や市内の経済状況等を考慮し、議員皆さんの総意によって決定されるべきものと考えています。

選挙公営については若い方々が議員となつて活動しやすい環境作りは私も必要だと思つている。制度や経費に関する選挙管理委員会の意見、意向等を尊重しながら対応したいと考えています。

質問 従来の観光は、着地型観光について

答弁 これまでの旅行形態は団体旅行を

中心とした発地型旅行が主流であった。最近では生活スタイルの変化に伴い、目的性、テーマ性のある旅行へと観光ニーズが変化してきている。4月から仙北市インフォメーションセンターを駅前蔵に設置し滞在型、体験型メニューの作成と観光客のPRに取り組んでいる。

質問 市長はマニフェストの中で市民90%以上を何らかの形で運動するようにさせたいと言っているが、テレビや新聞等でおなじみのチャレンジデーに参加することに運動に対する関心を高め動機付けになると思うがどうか。

答弁 このチャレンジデーは同じ規模の人口の市町村と、朝の12時から夜の9時迄1日に15分以上運動した住民の参加率を競うものである。教育委員会でもその効果を認め来年実施の方向で検討している。現在、県体育協会や過去に参加している自治体等からアドバイスを頂いているところである。今後各方面に実施に向けてPR活動をしていきたい。

質問 何年か前に北海道JRで道路と線路を両方走れるマイクログルズを開発した。その後実証実験を重ね本格的に導入の段階に入ったようである。現在は、実

証実験を行う鉄道に貸し出して、南阿蘇鉄道と明智鉄道で実証実験を行っている。内陸線でも是非実証実験をやってみたらどうか経費削減の救世主になるかもしれない。

質問 DMVについて

答弁 DMVには大きな期待を寄せているが実用化には未だ多くの解決すべき問題があることを踏まえ今のところ試験運行を行う考えはない。引き続き情報収集に努め可能性を探りたい。(門脇 記)



内陸線の救世主となるか DMV (デュアルモードビークルズ) 写真提供: 南阿蘇鉄道

一般質問



- 豪雨災害に対する対応と今後の対策について
- 民間工事の市内建設業者受注について
- 中学校の武道必修化に向けて

小林 幸悦 議員

豪雨災害に対する対応と今後の対策について

質問 比較的軽微な農

地災害等で個人対応された方々に対する救済措置は考えているようだが、その他で大きな被害を受けた農家等への救済措置は考えているか。

答弁 農地、農業用施設

の被害については被災農家水利組合の関係者と協議のうえ、補助災害に申請するもの、市単独の小規模災害の補助金で対応するものに区分けをして、それぞれ対策を講じている。

農作物の被害については、水田農業推進協議会でその救済策を検討する。

また、米、大豆等については農業共済制度の対象となるものは、一定の補助がなされるものと考える。また、農業分野に限定した一定の補償制度や助成金制度の創設は広く市民を対象とした現行の災害見舞金制度の見直しを検討する。

質問 県に対して河川

改修の要望を強く

行うべきと思うが効果的な方策は。

答弁 県に対しては年

一回開催の全体的意見交換、協議の場としての座談会その他に建設部として別途要望書を出しているが昨今の財政事情で全ての要望実現には厳しいものがある。ただ、集約的に被害を受けた西長野地区、入見内川、川下田、神代地区の才津川刺市川については緊急性が高く、重点的継続的に取り組みたい。

民間工事の市内建設業者受注について

質問 厳しい社会情勢

の中で建設業界も物件が少なく大変な状況にある。そんな中で、市の助成や協力により建設される民間の建物が市内の業者で施工できないのが残念である。

市内の業者が元請として受注できる方策はないのか。

答弁 市の助成（補助

金も含めて）があつたものでも市内の建設業者のみを指定して元請建設できるかどうかは、あ

くまで発注者、施主の考え方次第である。法的に縛りを入れるというのは無理があると考ええる。

仙北市ではこれまでも市内業者の利用については施主に協力をお願いしてきたがこれからも地元業者の利用の要請をしていきたい。

平成24年度中学校で必修化となる武道授業について

質問 文部省は、教育

と文化の尊重を広く国民に反映させるため、中学校において武道の必修化を平成24年度から実施することになったがこの武道選択について質問をしたい。

市内各中学校はこの武道必修化に向けてどのような取り組みをしているか。

また、地域には、沢山の外部指導者がいると思うのでそう言う方たちを活用していくつもりはないか。

答弁 保健体育の先生

方は柔道を全員指導できるので基本的には武道の必修は柔道になる

と思う。また、柔道着を入学前に購入するので柔道を取り入れている一因にもなっている。

武道の授業には指導者の問題が一番大事だと思う。学校現場だけでなく地域の活力を入れると言うのも今の教育には大切と思うのでクリアしなければならぬ問題もあるが積極的に外部の指導者を活用させて頂きたいと思う。

質問 女子は、柔道と

なると嫌がる生徒

もいると思うが弓道ならやってみようという生徒もいると思う。そうした場合、生徒の有益な選択肢が阻害されないよう複数の種目を取り入れた武道授業の選択肢は考えられないか。

答弁 評価をどうする

か等その他クリアしなければならぬ問題もあるがもう少し工夫させていただければと思っている。

（狐崎 記）



武道館で練習に励む高校弓道部

一般質問



○総合産業研究所の役割は育てる、根づかせる

○総合体育館で市民の活力アップ

荒木田 俊一 議員

災害対策について

質問 仙北市地域防災計画は市民のための計画になっているか。

この計画を活用する機能がなされているか。

避難所に避難したがその後のフォローが行われていたかを伺う。

答弁 仙北市地域防災計画は、市及び防災関係機関が持ち得る機能を発揮し、市民の命と財産を保護することを目的としている。この計画に基づき職員の動員、対応組織の設置、対策の形成、実施フォローを行い、後日復旧に向けて行動を起こす状況である。

しかし、突発的な豪雨等により、電話回線が不能となるなど危機管理上の問題も発生し、情報の一元化に手間取る点も見られた。今後、有効なシステム等防災計画へ組み込む。並行して危機管理計画もスピードを上げ策定する。

質問 たび重なる災害の復旧工事計画について伺う。

答弁 被害者からの復旧要望を聞き取り

対応したが、補助金交付要綱制度の遅れや発注が遅れたことから復旧に日数を要した。今後反省し、被災者と直接会い、復旧方法等協議を行い対応する。

復旧に当たって、市で積算した費用の60%を補助金として交付する。

原則として受益者が事業主体となり発注する事で早期の復旧を目指す。

質問 防災無線の整備のあり方について。

防災無線は角館は未整備であり、情報の伝達方法として無線でいいのか有線でもいいのか、また別の方法があるのか伺う。

答弁 防災無線や広報車などは大雨の中でよく聞き取れないなど市民の声が届いているし角館には設備がない。

この現状の中で有効な情報発信、伝達機能をどのように整備するか、リスク分散の視点から複層的なシステムの構築を図る。

産業振興について

質問 仙北市内では高速情報の通信網が整備されつつある中で、

当市の誘致企業やホテルがある田沢湖高原地区は未整備である。企業間競争に遅れをとらないためにも早急に整備すべきではないか。

答弁 市の産業育成でよる超高速回線の整備が重要である。

早急な整備に向けて通信サービス利用の意向調査を進めている。希望者は52%に昇りNTTに対して早急な整備の要請をしており、整備計画へ採択なることを望んでいる。

質問 総合産業研究所の役割について。

市長は任期中に成果を出すため急いでいるのではないか。いろいろなものを根付かせる、育てる、結果も大事であるがプロセスをつくってあげないと続けていけないものと思うがどうか。

答弁 総合産業研究所はこれまで農産物、特産品の発掘調査や首都

圏での物産展の開催、仙北市産あきたこまちの米粉を活用した揚げめん「麵恋こまち」や米の真空パック、無洗米等の開発に取り組んでいる。研究所の最終目標は所得のアップであり成果を最速に求めていく行動が必要と思っている。

総合体育館について

質問 たすべき役割として、

教育施設の充実、社会体育の充実、市民の健康増進などである。かつての田沢中学校バスケットは全県制覇、8連覇しており地域住民が大いに盛り上がり活気を帯びていた。当時の方々が

今、地域運営体の主体となつて活動している。低迷している市民の活力という面と、北東北サミットでスポーツの重要性が議論され、その宣言がされた。今後の市の方向性について伺う。

答弁 市には体育館が14館、平成21年度では年間延

べ14万人が利用している。合併前の田沢湖町で総合体育館の建設について調査されており10億円を超える建設費と維持管理費などで課題もある。

総合体育館は公式の大会誘致や合宿などが可能となり子供達にとつても一流選手のプレーを間近で見ることが貴重な経験となる。また公式の大会を開催することにより、多くの観客が訪れることによる経済効果や市の知名度アップやイメージアップになる等、たくさんメリットが考えられる。

（田口喜記）



観覧席が整備されている体育館

一般質問



○ゲリラ豪雨被害への支援と今後の対策について
○田沢湖病院の医師確保対策と「ドクターヘリ」への対応について

熊谷 一夫 議員

豪雨災害について

質問 先般断続的に当市を襲ったゲリラ豪雨による被害は甚大なものであった。災害時における緊急支援体制、情報伝達システム、緊急連絡方法は適切に行われたかどうか。

答弁 落雷による電話回線不能のために早朝から市全域を防災行政無線、広報車、戸別訪問などで周知を図ったが、角館地区の防災行政無線が未整備であったために、適時的確な情報発信が遅れてしまった。今後各庁舎に緊急用のアナログ電話を設置する。また、携帯電話による防災情報発進システム「エリアメール」等で情報も提供する。

質問 避難指示、避難場所への適切、迅速な体制、また行動はなされたのかどうか。

答弁 角館山根地区、西長野地区、神代梅沢地区に避難勧告を出した。住民に混乱が生じないよう細心の注意を払い、広報車と職員による戸別訪問を行って、避難

計画において定めている各避難所へ適時的確で迅速な誘導を行った。避難者へは被害状況を説明しながら不安解消に努めた。

質問 市職員の災害に對する危機管理意識は十分か。

答弁 今一度事態の検証を行い、災害はいつでもやって来るという意識のもとで、平常時から実践的な防災訓練を実施し、職員全員の災害に對する危機管理意識の高揚に最大限努めたい。

質問 災害時において、要介護者、高齢者、障害者等に対する支援、取り組みは十分行われたか。

答弁 要介護者に対しては包括支援センターや福祉施設等が連携し世帯を訪問しながら避難活動に当たった。今後も連携を密にしながら迅速に対応したい。

質問 災害復旧の進行状況等の被害者宅への連絡はなされたのか。

答弁 被災者から、河川の堤防の改修や農地・農業用施設の復旧

対策の要望、意見が相次いでいる。職員が全ての個所を確認し、応急的措置の他、補助災害への申請、市単独での対応の区分けをして対策を講じる。

質問 今後の防災対策について伺う。

答弁 仙北市危機管理計画案の策定を進めているが、並行して、今回の災害を契機に地域防災計画の抜本的な見直しに着手をしている。

「仙北市防災の日」の制定について

質問 昭和35年8月3日の田沢湖水害か

ら今年で50年を向かえる。当時のことを風化させず災害に強い地域づくりを構築していくためにも、8月3日を仙北市防災の日と制定してはどうか。

答弁 大災害を教訓として後世に伝えていくという意義の深いものと認識し今後検討して行きたい。

田沢湖病院について

質問 田沢湖病院の医師確保対策・救急医療再開についての進捗状況と今後の見通しについて伺う。

答弁 県が来年度中の運用開始を目標に、検討委員会を設置している。運行要領の整備に伴い、具体的な説明が市町村に周知される予定だが、実際の運用に当たっては、本市の救急医療の現状に即応した運用体制を強く要望していきたい。



運用開始が待たれるドクターヘリ
北海道西部地区ドクターヘリ（札幌市）

答弁 現在医師を初めとする医療スタッフの確保に全力を尽くしている。しかし、なかなか成果が見えない。田沢湖病院のみならず病院事業全体の課題であることに鑑みて医療局を設立することで、これまで以上に行政と病院が一体となって努力を傾聴していく。

質問 県にドクターヘリが配備された際本市においても救急医療体制を整備する必要があるかどうか。

答弁 県が来年度中の運用開始を目標に、検討委員会を設置している。運行要領の整備に伴い、具体的な説明が市町村に周知される予定だが、実際の運用に当たっては、本市の救急医療の現状に即応した運用体制を強く要望していきたい。

（高橋 記）

一般質問



○木質バイオマス発電について
 ○仙北市国税返還金問題について
 ○県立高校統合問題等重要問題について
 八柳 良太郎 議員

木質バイオマス発電について稼働状況は

質問 バイオマス事業は1年4ヶ月の審議結果、産業建設常任委員会会で否決されたが本会議で可決となり、市民のブーイングも聞かれるなか、施設の建築が始まり本年4月から事業が開始された。

答弁 ところが、9月定例会で、当初計画どおりの稼働状況に至っておらず、「にしき園」にエネルギーが供給できないため燃料費の補正が提案された。事業開始から5ヶ月が経過した現時点でバイオマス発電の稼働状況を伺いたい。

質問 試運転や各種の点検、確認、データの収集作業を続けてきたが、原料となるチップの水分含有率が想定よりも高かったことや、雷による緊急停止など、いろいろな課題が明らかになり、施設のメンテナンス業者及びチップの供給先と協議を重ね、対策を講じている状況



多数の視察者のバイオマス発電所

である。稼働状況であるが、電

気については、8月までの平均で7.4%、熱量は30%の供給になっている。今後は水分含有率50%以下のチップの供給が可能になったことから、計画どおりの稼働を維持できると期待する。

質問 今後の見通しは

答弁 チップの安定供給に関する協定書の中に、供給量及び品質、形状を定めた項目がある。含水率により燃焼効率、価格も違ってくるのは当然であるにも関わらず、定められた品質の

チップを使用しなかったのか。

質問 稼働した時点で含水率が65%程度あり、想定していた50%を大きく上回り2系統の運転が出来ない結果となった。

答弁 事前の協議で含水率の資料は提示されていたが十分な周知がなく、稼働前の取り組みに課題があったと認識している。50%以下のチップを製造するために、乾燥した原木を確保してもらい9月1日から供給が実現した。今後冬場を迎えることから、その対策もお願いしている。

質問 今後の見通しについて

答弁 は、原材料のチップが改善されたことにより9月から2系統のガス化炉が稼働しており、現在ではほぼ当初計画の稼働状況になっている。このまま適正な数値のチップが納入できれば「にしき園」の燃料費についても改善されるものと思っ

国税返還金問題について

質問 市の国保調整交付金過大受給調査委員会は、徹底的な事態の解明に努め、再発防止の提言についてもまとめ報告された事は評価する。

答弁 市民に迷惑のかからない方法で解決したいと考えているが、会計検査院の指摘の内容が今のところ不明であり、対応、処分等の見解を今ここで話すわけにはいかないことを理解いただきたい。

質問 市民会議では意見がまとまらず4校舎2校案を選び、県に

要望書を出したとの報告があった。

質問 また、庁舎の問題も市民会議で検討されているようだが、このような重要問題を定例会の場で報告のみで済ませているのか非常に危惧するところである。

答弁 二元代表制のもと議会も住民の幸せにつながるよう努力しているし説明責任もある。議会に対して報告のみで終わるのではなく協議を持ちながら進めていくべきではないか。

質問 市民会議は自分の政治姿勢と理解いただきたい。高校問題については先の、議会特別委員会の報告内容をいただき市民会議を開催し、市の方向づけをしたところである。

答弁 庁舎の問題については市民の方々から議論をいただき、当然その後、議会に集約されたものを提示する。

その前段階が市民会議のあり方であると理解いただきたい。

(小林 記)